

2025年度 文学部聴講生
講義要項
(ドイツ語文学文化専攻抜粋)

中央大学 文学部

2025.4 - 2026.3

目 次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	教室番号	単位数	ページ番号
E1301	ドイツ語文学文化	ドイツ文学史(1)	羽根 礼華	前期	月	3時限	3353	2	1
E1302	ドイツ語文学文化	ドイツ文学史(2)	羽根 礼華	後期	月	3時限	3353	2	3
E1303	ドイツ語文学文化	ドイツ語学Ⅰ(1)(3):講義	藤縄 康弘	前期	金	2時限	3252	2	5
E1304	ドイツ語文学文化	ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義	林 明子	前期	水	3時限	3352	2	7
E1305	ドイツ語文学文化	現代ドイツ事情(1)／現代ドイツ事情(1)(3)	シュミット、マリア ガブリエラ	前期	月	3時限	3352	2	10
E1306	ドイツ語文学文化	現代ドイツ事情(2)／現代ドイツ事情(2)(4)	シュミット、マリア ガブリエラ	後期	月	3時限	3352	2	13
E1307	ドイツ語文学文化	ドイツ社会誌(1)(3)	磯部 裕幸	前期	金	3時限	3453	2	16
E1308	ドイツ語文学文化	ドイツ社会誌(2)(4)	磯部 裕幸	後期	金	3時限	3453	2	19
E1309	ドイツ語文学文化	ドイツ文学講義(1)(3)	田中 一嘉	前期	火	5時限	3353	2	22
E1310	ドイツ語文学文化	ドイツ文学講義(2)(4)	田中 一嘉	後期	火	5時限	3353	2	24
E1311	ドイツ語文学文化	ドイツ思想(1)／ドイツ思想史(1)	縄田 雄二	前期	月	2時限	3453	2	26
E1312	ドイツ語文学文化	ドイツ思想(2)／ドイツ思想史(2)	縄田 雄二	後期	月	2時限	3453	2	29
E1313	ドイツ語文学文化	ドイツ文化講義(1)(3)／ドイツ文化講義(1)(3)(5)	石見 舟	前期	月	4時限	3352	2	31
E1314	ドイツ語文学文化	ドイツ文化講義(2)(4)／ドイツ文化講義(2)(4)(6)	石見 舟	後期	月	4時限	3352	2	34
E1315	ドイツ語文学文化	ドイツ語学Ⅰ(2)(4):演習	藤縄 康弘	後期	金	2時限	3252	2	37
E1316	ドイツ語文学文化	ドイツ語学Ⅱ(2)(4):演習	林 明子	後期	水	3時限	3352	2	39

科目名: ドイツ文学史(1)

担当教員: 羽根 礼華

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-C103

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:3

更新者: AA1541

更新日時: 2024-12-26 12:19:4

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

中世から現代までのドイツ語で書かれた文学の歴史を学びます。文学を取り巻く政治・社会・文化の状況にも目を配りつつ、それぞれの時代の文学の潮流と主要な作家・作品について解説します。文学作品の抜粋を講読し、作品に関連する音楽や映画なども随時取り上げます。

科目目的

この科目は、中世から現代にいたるまでのドイツ文学史の基礎知識を習得することを目的としています。

到達目標

- ・ドイツ文学史の展開についての基礎的な知識を身につけること。
- ・ドイツ語文学の主要な作家と作品についての知識を習得すること。
- ・ドイツ語文学に関連する音楽や映画などについての知識を広げること。

授業計画と内容

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: 中世の叙事詩: 『トリスタン』『ニーベルンゲンの歌』
- 第3回: 中世の抒情詩: ミネゼンゲ
- 第4回: 近世の文学①: 人文主義、活版印刷術、ルターによる聖書のドイツ語訳
- 第5回: 近世の文学②: マイスターゼンゲ、宗教劇、謝肉祭劇
- 第6回: 感傷主義、シュトゥルム・ウント・ドラング
- 第7回: 18世紀の市民劇
- 第8回: ゲーテとシラー、ドイツ・ジャコバン派
- 第9回: ロマン主義
- 第10回: 三月前期の文学、リアリズム
- 第11回: 自然主義、「世紀末」の文学
- 第12回: 表現主義、ダダイズム、「新しい女」
- 第13回: ナチ時代の文学、1945年以降の文学
- 第14回: 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書の指定範囲や配布資料を良く読んだ上で、授業に臨んでください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 50% 授業で扱ったドイツ文学史についての基礎知識を理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを評価します。

レポート	0%
平常点	50% 授業中の活動への取り組みとリアクションペーパーの記述内容を基準とします。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業中にリアクションペーパーの内容を紹介し、コメントや質問に回答します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

柴田翔(編著)(2003)『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房 *各自入手してください。

*上記以外の文献は授業中に随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

原則として、正当な理由なく4回以上欠席した場合には、F評価とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

参考URL

備考

この科目は教職(ドイツ語)の必修科目です。

科目名：ドイツ文学史(2)**担当教員：羽根 礼華**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：月3

配当年次：1年次配当

科目ナンバー：LE-LT1-C104

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:3

更新者：AA1541

更新日時：2024-12-26 10:33:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「ドイツ文学史(1)」で扱った中世から現代までのドイツ文学史の概要を踏まえつつ、ドイツ語文学作品を講読します。小説・詩・戯曲の各ジャンルからそれぞれ数編を取り上げ、文学テキスト分析の方法についても併せて学びます。授業で読むのは主に近現代の作品ですが、中世から近世までの文学・文化も、近現代における受容という観点から適宜扱います。

科目目的

この科目は、作品の読解を通じてドイツ文学史の知識を深めると共に、文学テキスト分析の基礎的な方法を身につけることを目的としています。

到達目標

- ・ドイツ文学史の展開についての知識を深めること。
- ・ドイツ語文学の主要な作家と作品についての知識を深めること。
- ・文学テキスト分析の基礎的な方法を習得すること。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：ヨーハン・ヴォルフガング・ゲーテ『若きヴェルターへの悩み』／テキストとパラテキスト、小説の冒頭と結末
- 第3回：トーマス・マン『ヴェネツィアに死す』／語り手、焦点化と焦点人物
- 第4回：イルゼ・アイヒンガー「鏡物語」／プロットとストーリー、時間
- 第5回：小括(小説)
- 第6回：ヨーハン・ヴォルフガング・ゲーテ「トゥーレの王さま」(『ファウスト』より)／詩脚、詩行、詩節
- 第7回：ハインリヒ・ハイネ「ローレライ」(『歌の本』より)／韻、終止形
- 第8回：パウル・ツェラン「死のフーガ」／修辭的文彩
- 第9回：小括(詩)
- 第10回：ゴットホルト・エフライム・レッシング『賢人ナータン』／場所、時間、筋
- 第11回：ハインリヒ・フォン・クライスト『ペンテジレアー』／戯曲の言語、戯曲のジャンル
- 第12回：ハイナー・ミュラー『ハムレットマシーン』／間テキスト性
- 第13回：小括(戯曲)
- 第14回：総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書の指定範囲や配布資料を良く読んで上で、授業に臨んでください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	授業で扱ったドイツ文学と文学テキスト分析の方法についての基礎知識を理解し、ドイツ文学作品を論じることができるかどうかを評価します。
レポート	0%	
平常点	50%	授業中の活動への取り組みとリアクションペーパーの記述内容を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業中にリアクションペーパーの内容を紹介し、コメントや質問に回答します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
柴田翔(編著)(2003)『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房 *各自入手してください。
*上記以外の文献は授業中に随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

原則として、正当な理由なく4回以上欠席した場合には、F評価とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

参考URL

備考

この科目は教職(ドイツ語)の必修科目です。

科目名: ドイツ語学 I (1)(3):講義

担当教員: 藤縄 康弘

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 金2

配当年次: 2年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C201,LE-LG2-C2

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:4

更新者: AC7671

更新日時: 2025-01-10 18:44:5

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

言葉はコミュニケーションの手段であるとともに、歴史的・文化的遺産とも見なされる。この講義では、ドイツ語の根本的な仕組みを学習しながら、実用と教養の両方にバランスの取れた見識を養う。

科目目的

- ・ドイツ語の具体的な文法事象(そこには日本語にも英語にも見られないものがある)を歴史や文化との関連で体系的に把握する
- ・そうした体系性がいかにコミュニケーションに作用しているかを理解し、この認識を語学力の上達や異文化理解に生かす姿勢を身につける

到達目標

- ・CEFR B1 程度のドイツ語読解力を身につけている
- ・このレベルの読解力を支える文法事項について十分な説明が行える

授業計画と内容

1. 導入:ドイツ語の歴史的・国際的・地域的背景
2. 音韻 (1):母音、子音と音節
3. 音韻 (2):アクセント
4. 文法 (1):語形変化の特色
5. 文法 (2):品詞分類
6. 文法 (3):文の構造
7. 確認テスト 1、中間まとめ
8. 文法 (4):語順
9. 文法 (5):時制
10. 文法 (6):格
11. 文法 (7):態
12. 文法 (8):語彙と造語法
13. 名詞の性と数
14. 確認テスト 2、総まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 30% | 既習事項の要点を抑えているかどうかを確認する。 |
| 期末試験 | 30% | 授業での学習成果をもとに自らドイツ語のテキストを読解・分析し、その結果を適切な日本語で説明できるかどうかを確かめる。 |

レポート	0%	
平常点	40%	授業中の質問や発言、コメントシート、課題への取り組みなど。通常の努力をもって受講しているかどうかを確認する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

※欠席が開講回数の1/3を超えた者は成績評価の対象としません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

別途指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・履習にあたり、初級ドイツ語の文法知識や読解力は必要であるが、それ以上の専門的知識は要求しない。
- ・本授業は、後期開設の「ドイツ語学I(2)(4):演習」の前提となる授業である。
- ・本授業に加えて、「ドイツ語学II(1)(3):講義」も合わせて受講することが望ましい。

参考URL

担当教員の HP:
<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/fujinawa/>

備考

この科目は教職(ドイツ語)の必修科目です。

科目名: ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義

担当教員: 林 明子

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 水3

配当年次: 2年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C203,LE-LG2-C2

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:4

更新者: AA0530

更新日時: 2025-01-09 13:25:3

授業形式**履修条件・関連科目等**

- (1) 本授業は、後期開設の「ドイツ語学Ⅱ(2)(4):演習」の前提となる授業である。
- (2) 本授業に加えて「ドイツ語学Ⅰ(1)(3):講義」も合わせて受講することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ✓ ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本科目では、特に、広義の応用言語学(語用論・社会言語学・テキスト言語学など)を中心に、言語研究の多様なアプローチとそこで用いられる基本的な概念・分析方法について、身近な具体例を通して学ぶ。今学期は「言語と社会」に関する事項を取り上げ、異なる言語もしくは言語変種の接触についても考える。

「講義」科目ではあるが、受け身で話を聞いていても理解は深まらない。実際に言語を分析してみることが重要である。そこで、授業中の活動には、分析課題とそれを受けての質疑応答も取り入れる。

科目目的

言語学分野の基礎知識と多様な方法論を知ることによって、言語学はもちろん、文学・文化学・演劇学・歴史学・美術／芸術などの他分野にあっても、言語の背景にある社会や文化に客観的に迫る力を身に付ける。言語学分野を専門としようとする履修者にとっては、近い将来、自分自身で組み立てる調査やデータ収集・データ分析にあたって、自分の道具となってくれる専門用語や方法論を整理・発見する一助となる。

到達目標

「言語学」という学問分野で繰り広げられるアプローチの多様性を知り、基礎的な知識と「ことば」をめぐる様々な観点、研究方法を知ingことを目標とする。然るべき方法論に則って、言語事実を客観的かつ正確に観察・分析するプロセスを学ぶ。それを通して言語の背景にある社会や文化に客観的に迫る力を身に付ける。

授業計画と内容

- * 履修者の関心に応じて内容を変更する場合もある。
- (1) オリエンテーション: 言語研究の諸分野と多様なアプローチ
- (2) 言語研究の諸分野と相互関係
- (3) ことばを研究するための視点や方法
- (4) 言語学の歴史から見る社会言語学
- (5) 社会現象としての言語／言語の捉え方
- (6) 社会言語学の研究部門
- (7) 言語接触: ビジンとクリオール
- (8) アイデンティティと言語
- (9) 二言語併用・多言語併用
- (10) 異言語間コミュニケーションのストラテジー
- (11) 言語接触と言語受容
- (12) 言語意識と言語態度
- (13) 地域方言・社会方言／スタイル切り替え
- (14) 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	当該分野の基本的な概念や方法論を十分理解し、自分自身の分析に応用できるだけの能力を身につけたかどうかを評価の対象とする。
レポート	0%	
平常点	30%	授業中の活動や授業内容を受けて出す提出課題を通して、基礎的な知識や方法論を身に付けたかどうか、分析課題にどう取り組んだかを評価する。授業後に提出する「今日の気づき・ひらめき」などを通して理解を確認するとともに、そこに記された発展的な「気づき」も重視した上で採点する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

原則として、出席率が70%に満たない者、課題未提出の者はE判定となるので注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを用いて、学生の反応や「気づき」を把握し、クラスで共有しながら授業を進める。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
* 授業用のハンドアウトを用意する。

<参考文献>

窪菌晴夫編著(2019)『よくわかる言語学』ミネルヴァ書房
グロジャン、フランソワ(著)、西山教行(監訳)、石丸久美子・大山万容・杉山香織(訳)(2018)『バイリンガルの世界へようこそ 複数の言語を話すということ』勁草書房
真田信治ほか(1993)『社会言語学』おうふう
真田信治編(2006)『社会言語学の展望』くろしお出版
トラッドギル、P. 著、土田滋訳(1975)『言語と社会』岩波新書
橋内武(1999)『ディスコース 談話の織りなす世界』くろしお出版
山本雅代編著、井狩幸男・田浦秀幸・難波和彦著(2014)『バイリンガリズム入門』大修館書店

Van Herk, Gerard (2018) What Is Sociolinguistics? Second Edition. Willey Blackwell.

< 辞典／事典類 >

* 専門の辞典類は、専門用語を中心に予・復習に役立つ。

亀井孝他編著(1996)『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂

小池生夫編集主幹(2003)『応用言語学事典』研究社

斎藤純男・田口義久・西村義樹編(2015)『明解言語学辞典』三省堂

ドイツ言語学辞典編集委員会編(編集主幹: 川島淳夫) (1994)『ドイツ言語学辞典』紀伊國屋書店屋書店

* その他、参考文献は授業の中で紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

連絡方法: オフィスアワーを含め、まずはmanabaまたはメールでご連絡ください。メールアドレスは、授業開始後、履修者にお知らせします。

参考URL

備考

科目名: 現代ドイツ事情(1)／現代ドイツ事情(1)(3)

担当教員: シュミット、マリア ガブリエラ

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C501

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:4

更新者: AC7659

更新日時: 2024-12-06 20:55:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ✓ ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- ✓ その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

Der Unterricht wird auf Deutsch und Japanisch, manchmal, wenn notwendig, auf Englisch oder in anderen Sprachen durchgeführt. 授業はドイツ語で日本語で行います。必要と気に英語と他の原本を読めるときにその本言語の文章を見えます。

授業の概要

Der Unterricht widmet sich den gegenwaerigen Themen des deutschsprachigen Raums (Deutschland, Schweiz, Oesterreich, Suedtirol, Luxemburg, Lichtenstein, Belgien) sowie Europas behandelt. Dabei werden grundlegende Kenntnisse der modernen europaeischen Geschichte, die politischen Systeme, gesellschaftliche Fragen, Nachrichten, Zeitungen, Erziehung und Bildung, Gesellschaft, soziale Fragen, Kultur, etc. genau betrachtet und analysiert. Ausserdem koennen aktuelle Themen einbezogen werden. 本講義では、ドイツ語圏とヨーロッパの現代社会・政治・文化・などのテーマをめぐっている。ドイツ語圏の基礎の歴史、政治のシステム、ニュース、新聞、教育、社会、社会問題などを詳しく見ている。その以外は新鮮なニュースを読んで分析すること。

科目目的

Da Ziel des Unterrichts ist es, aktuelle Entwicklungen und Ereignisse kritisch zu analysieren und zu hinterfragen. この授業の目的はドイツ語圏とヨーロッパの行った現代事情のイベント情報を分析すること、理解できること。

到達目標

ドイツ語圏とヨーロッパ史についての基礎知識を身につける。

授業計画と内容

- 第1回: オリエンテーション
- 第2回: ドイツ語圏の国: 言語、文化、政治、社会
- 第3回: ヨロッパの国: 言語、文化、政治、社会
- 第4回: ドイツ語圏とヨーロッパの現代歴史
- 第5回: 発表1: ドイツ語圏の国の基礎
- 第6回: 戦争の営業: ユダヤ人・シンティ・ロマ・難民・移動
- 第7回: 移民: ドイツ語圏とヨーロッパ
- 第8回: 鉄のカーテン: 西・東と西・東ドイツ
- 第9回: Gastarbeiterとヨーロッパ
- 第10回: 発表2: ドイツ・ドイツ語圏と歴史
- 第11回: ドイツの事情
- 第12回: スイスの事情
- 第13回: オーストリアの事情
- 第14回: 発表3: ドイツ語圏の時事: とまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回、授業内容に関する参考文献を示すため、自身が特に興味関心を持った内容については積極的に参考文献を閲覧し、知識と考察を深めること。小発表を準備して、授業中アクティブなディスカッションを行う。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	学期末に、授業内容に関するレポートの提出を求める。 ①授業内容を十分に理解しているか、②授業からどの程度自分自身の考察を引き出すことができたか、③主体的・積極的に学びを深めたかどうか、この三点からレポート内容を評価する。
平常点	40%	毎回のリアクションペーパーの内容を評価し、平常点として加算する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

原則として、14回の授業のうち、10回以上出席することを、成績評価の前提条件として求める。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

Feedback on request.

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

Dieser Unterricht ist handlungsorientiert ausgerichtet.

This class will use various forms of interaction and active learning as group work, discussion, presentations.

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

We will use ICT tools depending on the theme.

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト(教科書)は使用しない。

参考文献は授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 現代ドイツ事情(2)／現代ドイツ事情(2)(4)

担当教員： シュミット、マリア ガブリエラ

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 月3

配当年次： 1～3年次配当

科目ナンバー： LE-DT1-C502

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:30:4

更新者： AC7659

更新日時： 2024-12-06 21:24:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ✓ ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- ✓ その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

日本語、ドイツ語とほかの言語は現ぽについてです。指導している。

Der Unterricht wird auf Deutsch und Japanisch, manchmal, wenn notwendig, auf Englisch oder in anderen Sprachen durchgeführt. 授業はドイツ語で日本語で行います。必要と気に英語と他の原本を読めるときにその本言語の文章を見えます。

授業の概要

Der Unterricht widmet sich den gegenwaerigen Themen des deutschsprachigen Raums (Deutschland, Schweiz, Oesterreich, Suedtirol, Luxemburg, Lichtenstein, Belgien) sowie Europas behandelt. Dabei werden grundlegende Kenntnisse der modernen europaeischen Geschichte, die politischen Systeme, gesellschaftliche Fragen, Nachrichten, Zeitungen, Erziehung und Bildung, Gesellschaft, soziale Fragen, Kultur, etc. genau betrachtet und analysiert. Ausserdem koennen aktuelle Themen einbezogen werden.

本講義では、ドイツ語圏とヨーロッパの現代社会・政治・文化などのテーマをめぐっている。ドイツ語圏の基礎の歴史、政治のシステム、ニュース、新聞、教育、社会、社会問題などを詳しく見ている。その以外は新鮮なニュースを読んで分析すること。

科目目的

Da Ziel des Unterrichts ist es, aktuelle Entwicklungen und Ereignisse kritisch zu analysieren und zu hinterfragen. この授業の目的はドイツ語圏とヨーロッパの行った現代事情のイベント情報を分析すること、理解できること。

到達目標

ドイツの「想起の文化」を理解する。そこからさらに発展して、自国の負の歴史と向き合うとはどのようなことか、そこにはどのような障壁や課題があるのかを、ドイツのケースを一つの事例としながら考察できるようになることが目標である。

授業計画と内容

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:ドイツ語圏の休日・記念日
- 第3回:ドイツの教育について
- 第4回:教科書を分析する
- 第5回:ドイツ語圏の政治と社会
- 第6回:発表1
- 第7回:修道と政治
- 第8回:ドイツ語圏の修道と政治
- 第9回:文化と政治
- 第10回:発表2
- 第11回:ドイツ社会の課題
- 第12回:EUとヨーロッパの課題
- 第13回:平和と戦争
- 第14回:発表3とまとめディスカッション

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業で参考文献を提示するので、特に興味を持ったテーマについては、積極的に参考文献を閲覧し、知識と考察を深めること。この学修が、期末レポート執筆の基礎となる。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	学期末に、授業内容に関するレポートの提出を求める。 ①授業内容を十分に理解しているか、②授業内容からどの程度自分自身の考察を引き出すことができたか、③積極的・主体的に学びを深めているか、この三点からレポートを評価する。
平常点	40%	毎回のリアクションペーパーの内容を評価し、平常点として加算する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

原則として、14回の授業のうち、10回以上出席することを、成績評価の前提条件として求める。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

Feedback on demand

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容
Der Unterricht ist handlungsorientiert konzipiert.
This class is planned with active learning.

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

The use of ICT may depend on the contents of the class.

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト(教科書)は使用しない。
参考文献は授業のなかで適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: ドイツ社会誌(1)(3)

担当教員: 磯部 裕幸

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 金3

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C503,LE-DT1-C5

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:4

更新者: AA2034

更新日時: 2025-01-09 19:12:1

授業形式

すべての授業回について面接(対面)授業を実施する。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

授業テーマ:「ナチズムと『科学的』人種主義」

近代の医学や生物学の急速な発展は、人間の「カテゴリー」に関する認識にも大きな変化をもたらした。ここでは「人種」という概念が、しばしば「科学的客観性」の名のもとに実体化され正当化された。これがどのような恐ろしい帰結をもたらすかは、「ホロコースト」の歴史を紐解けば明らかであろう。

それではこうした「人種主義」は、ナチ体制下のドイツでどのようにして「政策」として取り込まれていくのか。またそうした「人種主義」に染まった政策が、どのような帰結をもたらしたのだろうか。本講義ではドイツにおける「人種主義」イデオロギーとナチズムの政治権力との関わりなどを追いながら、この問題を考えていきたい。その知見は、偏狭な排外主義が横行しつつある現代においても有益な示唆を与えてくれるだろう。

科目目的

本講義では、科学的な「人種主義」の思想がナチズムの主張とどのように重なり合うのかを考えることを目的とする。さらにはそうした「人種主義」の論理が、「ホロコースト」のような事象と直接結びつくのかどうか、という点に関しても考察を深めていきたい。

人文・社会科学の研究において、対象地域を歴史的に理解することは、どのような分野であれ必須である。従って本科目の履修は、将来卒業論文や卒業研究を執筆するにあたって有益な視座を与えてくれるだろう。

到達目標

本科目では、主に歴史学研究の手法や方法論を学び、人間社会に対する深い理解と広範な知識の修得を目指す。そして自ら問いを立て、他者との議論を通じて新たな知を創造することを最終的な到達目標とする。

授業計画と内容

- 第1回 導入:「人種主義」とは何か? 人類学/進化論/優生学の論理
 - 第2回 「人種主義」と政治(1):アメリカ合衆国の黒人差別
 - 第3回 「人種主義」と政治(2):南アフリカの「アパルトヘイト」
 - 第4回 「レイシズム」と「ナショナリズム」:近代日本における「人種主義」
 - 第5回 人種主義とナチズム(1):ヒトラーの人種論と「模範としてのアメリカ」
 - 第6回 人種主義とナチズム(2):人種衛生学・遺伝優生学研究の制度化(※1)
 - 第7回 政策となった人種主義(1):ユダヤ人に対する迫害(※1)
 - 第8回 政策となった人種主義(2):シンティ・ロマに対する迫害
 - 第9回 人種主義の暴走(1):「遺伝的障害者」への迫害/「T4作戦」の開始と中止
 - 第10回 人種主義の暴走(2):「絶滅収容所」と遺伝優生学
 - 第11回 医学の責任:「ニュルンベルク裁判」における医師たち
 - 第12回 今日の人種主義(1):いわゆる「文化レイシズム」の論理と思想
 - 第13回 今日の人種主義(2):科学(的客観性)は「レイシズム」を克服できるか?
 - 第14回 今日の人種主義(3):政治的「ポピュリズム」と「レイシズム」
- (※1)第6回目・第7回目の授業内容は、2024年度冬学期「ドイツ社会誌(2)(4)」で扱ったものと一部重複するので、注意されたい

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	100%	出席は取らない。学期末に提出する課題(レポート。分量は4000-6000字程度)のみで成績を評価する。学期末課題の詳細(体裁・提出期限・提出方法など)については、追って連絡する。
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書は指定しない。適宜プリントを配布する。

参考文献(必ずしも購入の必要はない)

- ・ジョージ・M・フレデリクソン(李孝徳訳)『人種主義の歴史』(みすず書房・2009年/改訂版2018年)
- ・藤川隆男『人種差別の世界史—白人性とは何か?』(刀水書房・2011年)
- ・ルース・ベネディクト(筒井清忠ほか訳)『人種主義—その批判的考察』(名古屋大学出版会・1997年)
- ・クロード・レヴィ・ストロース(渡辺公三ほか訳)『人種と歴史/人種と文化』(みすず書房・2019年)
- ・レオン・ポリアコフ(アリア主義研究会訳)『アリア神話—ヨーロッパにおける人種主義と民族主義の源泉』(法政大学出版局・新装版2014年)
- ・バリバル/ウォーラーstein(若林章孝ほか訳)『人種・国民・階級—「民族」という曖昧なアイデンティティ』(唯学書房・2014年)
- ・鶴飼哲/酒井直樹/テッサ・モーリス=スズキ/李孝徳『レイシズム・スタディーズ序説』(以文社・2012年)
- ・バーリー/ヴィッパマン(柴田敬二訳)『人種主義国家ドイツ—1933-45』(刀水書房・2001年)
- ・リチャード・ベッセル(大山晶訳)『ナチスの戦争—民族と人種の戦い』(中公新書・2015年)
- ・芝健介『ホロコースト—ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』(中公新書・2008年)

- ・ゲッツ・アリー(芝健介訳)『ヒトラーの国民国家——強奪・人種戦争・国民的社會主義』(岩波書店・2012年)
- ・リン・ニコラス(若林美佐知訳)『ナチズムに囚われた子どもたち——人種主義が踏みにじった欧州と家族(上・下)』(白水社・2018年)
- ・中西喜久司『ナチス・ドイツの優生思想——断種と「安楽死」政策を検証する』(文理閣・2019年)
- ・スザンヌ・E・エヴァンス(黒田学ほか訳)『障害者の安楽死計画とホロコースト——ナチスの忘れ去られた犯罪』(クリエイツかもがわ・2017年)
- ・ヒュー・グレゴリー・ギャラファール(長瀬修訳)『ナチスドイツと障害者「安楽死」計画』(現代書館・新装版2017年)
- ・ジェイムズ・Q・ウィットマン(西川美樹訳)『ヒトラーのモデルはアメリカだった——法システムによる「純血の追求」』(みすず書房・2018年)
- ・米本昌平ほか『優生学と人間社会——生命科学の世紀はどこへ向かうのか』(講談社現代新書・2000年)
- ・シュテファン・キュール(麻生九美訳)『ナチ・コネクション——アメリカ優生学とナチ優生思想』(明石書店・1999年)

オフィシアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: ドイツ社会誌(2)(4)

担当教員: 磯部 裕幸

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 金3

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C504,LE-DT1-C5

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:4

更新者: AA2034

更新日時: 2025-01-09 19:12:4

授業形式

すべての授業回について面接(対面)授業を実施する。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

授業テーマ:「二つの『全体主義』:ナチズムとスターリニズム」

本授業では、20世紀における「全体主義」の典型例とされる、ナチ体制およびスターリン支配下のソ連に焦点をあて、それらを比較することで支配体制やイデオロギーの構造を把握していきたい。ドイツでは1986年に始まる「歴史家論争」の議論に見られるように、長らくナチズムの過去は他国の事例と比較不可能であり、そうした試み自体がナチ体制下の国家犯罪を相対化する企てであるとされてきた。しかし冷戦の終結から30年余りが経過し、ようやく冷静な議論が始まりつつある。

この授業では、まず戦後の西ドイツにおいてナチズムの「比較可能性」がタブーとされてきた経緯を確認する。そしてヒトラーとスターリンが、それぞれ国内でどのような支配体制を築いたのかを検討し、あわせてそこには何が共通し、何が異なっているのかを政治・経済・住民の動員などといった項目ごとに考えていく。こうした比較は、それが特定の政治的主張に奉仕するものでなければ、我々の歴史認識を豊かにし、また広く日本の過去をめぐる問題にも、有益な視座を与えてくれるだろう。

科目目的

本授業では、ナチ体制下のドイツ社会について、その基本的知識を習得するとともに、同時代のソ連の歴史と比較することで、より多面的に捉えることを目指す。さらに、そうした視点を、日本の過去の問題を考える上での準備とすることにした。

到達目標

本科目では、主にドイツ近現代史を学ぶことによって、人間社会に対する深い理解と広範な知識の修得を目指す。そして自ら問いを立て、他者との議論を通じて新たな知を創造することを最終的な到達目標とする。

授業計画と内容

授業予定

(変更の可能性あり)

- 第1回 導入:「独裁」の20世紀—世界史からの問い
- 第2回 タブーとなった「比較」:80年代「歴史家論争」に至る道
- 第3回 ナチズムの「比較史」:最近の研究動向から
- 第4回 体制比較研究(1):ナチによる「権力掌握」
- 第5回 体制比較研究(2):ロシア革命の経緯
- 第6回 資本主義の「克服」:ヒトラー「四ヵ年計画」とスターリン「五ヵ年計画」
- 第7回 大衆動員のあり方(1):ナチの「民族共同体」思想
- 第8回 大衆動員のあり方(2):スターリン体制下における労働者
- 第9回 「排除の論理」(1):ナチによる迫害
- 第10回 「排除の論理」(2):共産主義体制下における「階級の敵」
- 第11回 「粛清の論理」(1):ナチによる「強制収容所」の歴史
- 第12回 「粛清の論理」(2):スターリンの「シベリア」
- 第13回 「歴史」という重荷(1):戦後ドイツと「過去の克服」
- 第14回 「歴史」という重荷(2):「スターリン批判」と「非スターリン化」

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	100%	出席は取らない。学期末課題(レポート。分量は4000-6000字程度)の成績で評価する。学期末課題の詳細(体裁・提出期限・提出方法)については、追って連絡する。
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは特に定めない。授業用プリントを配布する。適宜授業にて参考文献を紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：ドイツ文学講義(1)(3)**担当教員：田中 一嘉**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限：火5

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-LT1-C507,LE-LT1-C50

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:4

更新者：AC9346

更新日時：2025-01-11 21:52:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、様々なジャンルの文学作品に描かれる英雄像について考えます。

場合によってはヒロインを扱うこともあります。

文学作品の形式は時代、地域によって異なり、そこに描かれる英雄像もそれぞれの時代・地域に特有の性質を持っています。その一方で、どんな時代や地域においても普遍的に共通している要素も導き出せると考えられます。この二つの視点から授業で取り上げる作品を分析していきます。

授業で扱う作品は、ドイツに限らず、西洋文学の伝統を意識した幅広いものになっていますが、受講者の興味関心に応じて変更する場合があります。

また、適宜、映像資料も用いる予定です。

科目目的

この科目は、文学、文化、時代精神などについての「幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

- ・個々の文学作品について、時代・文化的背景を理解し、その独自性や現代との違いなどを他者に説明できること。
- ・個々の作品の独自性を理解すると同時に、その背後に隠れている共通項を探ることができるようになること。

授業計画と内容

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：アキレウス／ヘクトール
- 第3回：オデュッセウス
- 第4回：ヘラクレス
- 第5回：アレクサンドロス大王
- 第6回：シングルズ(『ヴォルズンガ・サガ』)
- 第7回：『ローランの歌』
- 第8回：ハルトマン・フォン・アウエ『グレゴールウス』
- 第9回：アーサー王／ランスロット
- 第10回：リチャード獅子心王(ウォルター・スコット『アイヴンホー』より)
- 第11回：ロビンフッド(ウォルター・スコット『アイヴンホー』より)
- 第12回：ナポレオン
- 第13回：シラー『ヴィルヘルム・テル』
- 第14回：総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

期末レポートでは、授業で扱った作品あるいは参考図書として紹介した作品の中からひとつを選んで、作品を通読した上でレポートにまとめられますので、随時テキストを読み進めたり、関連する参考文献を読んだりして考察を深めて下さい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	期末レポート。詳細についてはガイダンス時に説明します。
平常点	50%	毎回課すコメントペーパーの内容を評価します。 授業の概要をきちんと把握しているか、授業内容について自分の考えをまとめることができているかを評価基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

毎回レジュメや資料のコピーを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

現在の興味関心が文学に向いていなくとも構いませんが、歴史・社会・思想・芸術など、自らの学問的関心をもった受講生が幅広く参加してくれることを期待します。

参考URL

備考

科目名: ドイツ文学講義(2)(4)

担当教員: 田中 一嘉

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 火5

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-C508,LE-LT1-C51

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:5

更新者: AC9346

更新日時: 2025-01-11 22:01:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、ドイツ語圏に限らず、広くヨーロッパ地域の様々な時代における文学作品に描かれる「悲劇性」について考えます。個々の文学作品の解釈を通じて、どのような要素が読者に悲しみの念を抱かせるのか、そしてその効果・意味とは何かを分析していきます。適宜、映像資料も用いる予定です。

科目目的

この科目は、文学、文化、時代精神などについての「幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

- ・個々の文学作品について、時代・文化的背景を理解し、その独自性や現代との違いなどを他者に説明できること。
- ・個々の作品の独自性を理解すると同時に、その背後に隠れている共通項を探ることができるようになること。

授業計画と内容

- 第1回: オリエンテーション
- 第2回: ソフォクレス『オイディプス王』
- 第3回: アリストファネス、エウリピデス
- 第4回: アリストテレス『詩学』、ホラティウス『詩論』
- 第5回: 『ニーベルンゲンの歌』(1) クリエムヒルト
- 第6回: 『ニーベルンゲンの歌』(2) ブルグント一族
- 第7回: トリスタン伝説(1)
- 第8回: トリスタン伝説(2)
- 第9回: シェイクスピア
- 第10回: アンデルセン『人魚姫』
- 第11回: ゲーテ『若きウェルテルの悩み』
- 第12回: シラー『群盗』
- 第13回: シラー『メアリ・シュチュアート』
- 第14回: 総括

授業時間外の学修の内容

- 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

前回授業の内容を復習して、授業全体の流れを確認してください。
また、期末レポートでは、授業で扱った作品あるいは参考図書として紹介した作品の中からひとつを選んで、作品を通読した上でレポートにまとめてもらいますので、随時テキストを読み進めたり、関連する参考文献を読んだりして考察を深めて下さい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%

レポート	50%	期末レポート。詳細についてはガイダンス時に説明します。
平常点	50%	毎回課すコメントペーパーの内容を評価します。 授業の概要をきちんと把握しているか、授業内容について自分の考えをまとめることができているかを判断基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

毎回レジュメや資料のコピーを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

現在の興味関心が文学に向いていなくとも構いませんが、歴史・社会・思想・芸術など、自らの学問的関心をもった受講生が幅広く参加してくれることを期待します。

参考URL

備考

科目名：ドイツ思想(1)／ドイツ思想史(1)**担当教員： 縄田 雄二**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 月2

配当年次：1～3年次担当

科目ナンバー：LE-DT1-C511

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:5

更新者：AA9825

更新日時：2024-12-31 12:40:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ドイツが生んだ思想の重要なものに、文化史の記述がある。この講義では、そうした思想のいくつかを論じ、それらを批判的に参照しつつ、それでは現代においていかなる文化史記述が可能かを示す。文化の領域は広いが、対象は言語文化にほぼ限定する。前期・後期を通じて通史の古代から現代までの叙述を試みるが、前期のみ、後期のみ履修しても理解できるように配慮する。

ドイツ思想のみを論ずるのではなく、ドイツ思想を手掛かりとして文化史を叙述する授業である。この点を承知した上で履修していただきたい。

科目目的

- ・ドイツ思想の重要な部分(文化史)を知る。
- ・世界の言語文化の歴史についての概観を得る。

到達目標

- ・思想を載せた文章を読み慣れる。
 - ・世界の言語文化史から生まれた古典の数々への糸口を得る。
- たくさん本が読めるようになることを目指す授業である。

授業計画と内容

- 1.理論的基盤(1) Kittler: Eine Kulturgeschichte der Kulturwissenschaft
- 2.理論的基盤(2) Kittler: Geschichte der Kommunikationsmedien
- 3.理論的基盤(3) Luhmann: Die Gesellschaft der Gesellschaft
- 4.ヘルダーを手がかりに(1) 自然史・気象史、古生物学
- 5.ヘルダーを手がかりに(2) 音声言語と身振り言語
- 6.ヘルダーを手がかりに(3) 神話学
- 7.ヘルダーを手がかりに(4) 性と死の神話
- 8.ヘルダーを手がかりに(5) 洪水神話
- 9.ヤスパースを手がかりに(1) 枢軸時代論
- 10.ヤスパースを手がかりに(2) 古代の韻文
- 11.ヤスパースを手がかりに(3) 古代の碑文
- 12.ヤスパースを手がかりに(4) 古代の「死者の書」
- 13.ヤスパースを手がかりに(5) 古代における歴史記述
- 14.総括と到達度確認

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

manabaにアップロードした資料や自分でとったノートを授業後に読み返し、理解を深めていただきたい。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 学期末に試験をおこない、学期全体の授業にしっかりと取り組めたかを評価する。
レポート	0%
平常点	50% responなどにより、その回ごとの授業にしっかりと取り組めたかを簡単に評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

購入しなければならない文献は無い。講義をおこなうに際し講師が参照した文献は、その都度紹介するので、興味が湧けば読んでいただきたい。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・授業中に教員と学生がコミュニケーションできる無料アプリresponを用いる。manaba経由でスマートフォンにダウンロードしておいていただきたい。
- ・質問は以下いずれの方法でもよるこんで受けつける。(1) 授業中手を挙げる (2) 授業のおわりにresponでコメントを寄せる際に書き込む (3) manabaの個人指導コレクションを用いる
- ・遅刻・欠席については、公式の書類があるものについてのみ考慮を保証する。
- ・responで出席をとる際に不正行為を行った者には単位を与えない。文学部事務室に告発することも検討する。

参考URL

備考

科目名: ドイツ思想(2) / ドイツ思想史(2)

担当教員: 縄田 雄二

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C512

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:5

更新者: AA9825

更新日時: 2024-12-31 12:40:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ドイツが生んだ思想の重要なものに、文化史の記述がある。この講義では、そうした思想のいくつかを論じ、それらを批判的に参照しつつ、それでは現代においていかなる文化史記述が可能かを示す。文化の領域は広いが、対象は言語文化にほぼ限定する。前期・後期を通じて通史の古代から現代までの叙述を試みるが、前期のみ、後期のみ履修しても理解できるように配慮する。

ドイツ思想のみを論ずるのではなく、ドイツ思想を手掛かりとして文化史を叙述する授業である。この点を承知した上で履修していただきたい。

科目目的

- ・ドイツ思想の重要な部分(文化史)を知る。
- ・世界の言語文化の歴史についての概観を得る。

到達目標

- ・思想を載せた文章を読み慣れる。
 - ・世界の言語文化史から生まれた古典の数々への糸口を得る。
- たくさん本が読めるようになることを目指す授業である。

授業計画と内容

1. キットラー、ルーマンを手がかりとして(1)理論的基盤
2. キットラー、ルーマンを手がかりとして(2)弦楽器の伝播と文学
3. キットラー、ルーマンを手がかりとして(3)人文主義
4. キットラー、ルーマンを手がかりとして(4)宗教改革
5. キットラー、ルーマンを手がかりとして(5)戯曲改革
6. キットラー、ルーマンを手がかりとして(6)近代読者の発生、版画と言語文化
7. キットラー、ルーマンを手がかりとして(7)書かれたものを集成すること
8. キットラー、ルーマンを手がかりとして(8)文献学
9. キットラー、ルーマンを手がかりとして(9)連載小説
10. キットラー、ルーマンを手がかりとして(10)録音される言語文化
11. キットラー、ルーマンを手がかりとして(11)ラジオドラマ
12. キットラー、ルーマンを手がかりとして(12)シナリオ小説
13. キットラー、ルーマンを手がかりとして(13)人類の言語文化遺産のデジタル化
14. 総括と到達度確認

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

manabaにアップロードした資料や自分でとったノートを授業後に読み返し、理解を深めていただきたい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	学期末に試験をおこない、学期全体の授業にしっかりと取り組めたかを評価する。
レポート	0%	
平常点	50%	responなどにより、その回ごとの授業にしっかりと取り組めたかを簡単に評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

購入しなければならぬ文献は無い。講義をおこなうに際し講師が参照した文献は、その都度紹介するので、興味が湧けば読んでいただきたい。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・授業中に教員と学生がコミュニケーションできる無料アプリresponを用いる。manaba経由でスマートフォンにダウンロードしておいていただきたい。
- ・質問は以下いずれの方法でもよるこんで受けつける。(1) 授業中手を挙げる (2) 授業のおわりにresponでコメントを寄せる際に書き込む (3) manabaの個人指導コレクションを用いる
- ・遅刻・欠席については、公式の書類があるものについてのみ考慮を保証する。
- ・responで出席をとる際に不正行為を行った者には単位を与えない。文学部事務室に告発することも検討する。

参考URL

備考

科目名: ドイツ文化講義(1)(3) / ドイツ文化講義(1)(3)(5)

担当教員: 石見 舟

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C513, LE-DT1-C5

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:5

更新者: XEA503

更新日時: 2025-01-11 23:26:0

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います(予定)。

履修条件・関連科目等

前期「舞台芸術論」の聴講と、続けて後期「ドイツ文化講義」の履修をおすすめします。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

タイトル: 亡霊の姿—演劇学の視点

■ 亡霊とは?

本講義はドイツ語圏でここ100年ほどかけて研究されてきた演劇学の知見をもとに、前期は「亡霊」について、後期は「風景」について考察します。

「亡霊」は「幽霊」「おぼけ」など色々な名前を持っています。どのような名前でも構いませんが、亡霊とは何でしょうか?——いないはずの所にいるということ。いやいや、いないのだけど、いないとも言切れない…… 亡霊は存在と不在の間にあります。

さらに演劇学的視点から言えば、二つの点を指摘できます。

(1) 古今東西の演劇で亡霊役はよく登場する。

(2) 亡霊の存在は見えるか見えないか、つまり「形」を巡って語られる。

つまり、演劇では「亡霊を見る」ことはあまり疑問を持たずに行われてきたのです。なぜでしょう? 演劇には「お約束」があるから等と説明できますが、大きな要因は「信じなくなる」ような亡霊が登場しているから、と言えます。人はどのような死者(あるいはまだ存在していないモノ)に対して目を向けたいと思うのでしょうか? そして「見る」という行為はそもそも何なのでしょう?

こうした問いに古今東西の演劇の事例を見ながら、検証したいと思います。その時に「演劇」というモデルが大きな役割を果たすのです。

いままで演劇を見たことがない方も、あるいは演劇が嫌いという方も是非お越しください。

■ 授業の受け方および評価について

各回の目次と参考文献等をmanaba経由で配布します。

個々のトピックについて口頭で講義していきます。ですので、受講生の皆さまには、耳で聞いた情報をノートにまとめる作業を行っていただきます(紙、電子を問わない)。

聞き漏らしてしまったこと、理解できなかったことについては授業の最後に提出するリアクションペーパーに書いていただきます。次の授業の冒頭でフィードバックを行います。

第14回で、内容についての確認を行います。具体的には言葉の選択と簡潔な文章を書いていただきます(これについては第1、2回でアナウンスします。)

科目目的

- ・舞台芸術に関する基礎知識を修得する。
- ・ドイツ語圏演劇学の概要を修得する。
- ・言語・文化の異なる演劇作品の比較分析について理解を深める。

到達目標

- ・舞台芸術に関する基礎知識を、他人に簡潔に説明することができる。
- ・ドイツ語圏演劇学の概要を、他人に簡潔に説明することができる。
- ・言語・文化の異なる演劇作品の比較分析について独自の視点から理解を深め、自身の言葉で論述することができる。

授業計画と内容

第1回授業案内、亡霊という形姿(Figur)

第2回亡霊の登場する劇:『ペルシア人』、『マクベス』、『幽霊』など

第3回シェイクスピア『ハムレット』と憑在論~「いまの世のなかは関節がはずれている」

第4回プレヒト(1): 戯曲断片『ファッツァー』~「以前は過去から亡霊がやって来たが/今では未来からやって来る」

第5回プレヒト(2): 演劇理論「身振り」について

第6回喪の作業: フロイト、イェリネク

第7回人形: クライスト『マリオネット芝居について』、カントル『死の教室』

第8回振付け:

第9回能(1): 野上豊一郎の比較演劇論

第10回能(2): 現代の創作、細川敏夫、岡田利規

第11回ハイナー・ミュラーの亡霊たちと『ハムレットマシーン』

第12回「アウシュヴィッツ」をめぐる表象可能性(1): アドルノとツェラン

第13回「アウシュヴィッツ」をめぐる表象可能性(2): ディディ=ユベルマン、ポスト破局の演劇について

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 設問に対応した解答の達成度。
レポート	0%
平常点	50% 授業へ取り組む姿勢を、各回毎に集計するショートレポートの記述内容の充実度から評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室中での授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クlickカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- ・都度、資料等はmanabaで通知・配布します。

【参考文献(一部)】

- ・ハンス・ティース＝レーマン『ポストドラマ演劇』同学社、2002年。
- ・ギュンター・ヘーグ『越境文化演劇』三元社、2024年、ISBN: 978-4-88303-597-7。
- ・Gerald Siegmund "Theater- und Tanzperformance" Junius, 2020.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: ドイツ文化講義(2)(4)ノドイツ文化講義(2)(4)(6)

担当教員: 石見 舟

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C514,LE-DT1-C5

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:5

更新者: XEA503

更新日時: 2025-01-11 23:25:3

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います(予定)。

履修条件・関連科目等

前期「ドイツ文化講義」および「舞台芸術論」の受講をおすすめします。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

タイトル: 風景の時空間—演劇学の視点

■ 風景とは?

本講義はドイツ語圏でここ100年ほどかけて研究されてきた演劇学の知見をもとに、前期は「亡霊」について、後期は「風景」について考察します。

後期は、前期の亡霊論を引き継ぎながら、その前提となるような時間と空間について、「風景」について論じていきます。

「風景」とは非常にありふれた言葉ですが、実は近代にヨーロッパで生まれた新しい言葉です。それに加えて、室内に閉じこもることの多い演劇はつねに風景をつかみ損ねてきました。

本講義ではまず風景概念のあらましについて概観し、続いて絵画や文学における風景を考えます。そして演劇の風景という「問題」に取り組んだ例について、古今東西の演劇の事例を見ながら、検証したいと思います。その時に「演劇」というモデルが大きな役割を果たすのです。いままで演劇を見たことがない方も、あるいは演劇が嫌いという方も是非お越しください。

■ 授業の受け方および評価について

各回の目次と参考文献等をmanaba経由で配布します。

個々のトピックについて口頭で講義していきます。ですので、受講生の皆さまには、耳で聞いた情報をノートにまとめる作業を行ってまいります(紙、電子を問わない)。

聞き漏らしてしまったこと、理解できなかったことについては授業の最後に提出するリアクションペーパーに書いていただきます。次の授業の冒頭でフィードバックを行います。

第14回で、内容についての確認を行います。具体的には言葉の選択と簡潔な文章を書いていただきます(これについては第1、2回でアナウンスします。)

科目目的

- ・舞台芸術に関する基礎知識を修得する。
- ・ドイツ語圏演劇学の概要を修得する。
- ・言語・文化の異なる演劇作品の比較分析について理解を深める。

到達目標

- ・舞台芸術に関する基礎知識を、他人に簡潔に説明することができる。
- ・ドイツ語圏演劇学の概要を、他人に簡潔に説明することができる。
- ・言語・文化の異なる演劇作品の比較分析について独自の視点から理解を深め、自身の言葉で論述することができる。

授業計画と内容

- 第1回授業案内、風景という時空間
- 第2回近代美学の成立(1): 美、芸術家、崇高、ピクチャレスク
- 第3回近代美学の成立(2): リッターから脱人間中心主義まで
- 第4回文学の風景: シラー、ヘルダーリン、リルケ
- 第5回演劇の風景まで(1): ポストドラマ演劇という気づき
- 第6回演劇の風景まで(2): サイト・スペシフィック・シアターの美学
- 第7回演劇の風景まで(3): 越境文化演劇、テキスト風景の演劇
- 第8回演劇の風景(1): ハイナー・ミュラー『画の描写』
- 第9回演劇の風景(2): ハイナー・ミュラー『指令』
- 第10回演劇の風景(3): 能の翻訳
- 第11回演劇の風景(4): 能の風景
- 第12回演劇の風景(5): マレビトの会「被曝三都市」
- 第13回演劇の風景(6): 日独演劇の交流、チェルフィッチュ『消しゴム山』
- 第14回総括・まとめ: 理解の確認

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 設問に対応した解答の達成度
レポート	0%
平常点	50% 授業へ取り組む姿勢を、各回毎に集計するショートレポートの記述内容の充実度から評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- ・都度、資料等はmanabaで通知・配布します。

【参考文献(一部)】

- ・ハンス・ティース＝レーマン『ポストドラマ演劇』同学社、2002年。
- ・ギュンター・ヘーグ『越境文化演劇』三元社、2024年、ISBN: 978-4-88303-597-7。
- ・Gerald Siegmund "Theater- und Tanzperformance" Junius, 2020.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: ドイツ語学 I (2)(4):演習

担当教員: 藤縄 康弘

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 金2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C853,LE-LG2-C8

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:31:0

更新者: AC7671

更新日時: 2025-01-10 18:45:2

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

- (1) ドイツ語の物語文を日本語に翻訳する実習を行います。
- (2) 受講者は、毎回、指定された範囲をあらかじめ日本語に「翻訳」し(つまり、単なる直訳ではなく、日本語として自然に読める文章表現を工夫し)、提出してください(提出方法の詳細は授業で指示)。
- (3) 授業時間では、解釈の難しかったところを中心に内容を確認するだけでなく、提出された和訳に基づきながら翻訳のポイントとなる諸点について議論します。
- (4) 授業後は各自、自分の翻訳を見直し、再度提出してもらいます。
- (5) 翻訳そのもののほか、作品解釈についても考察します。

科目目的

- ・ドイツ語のテキスト(文章)の構成や表現としてのまとまりを言語学的な視点から分析する手法を身につける
- ・ドイツ語のテキスト(文章)の構成上の特色を知ること、自身のドイツ語および日本語による表現力の向上につなげる姿勢を身につける

到達目標

科目目的を参照

授業計画と内容

1. オリエンテーション
2. 線状性と文章の構成
3. 主題の選択 - 理論編
4. 主題の選択 - 第三者的語りの場合
5. 主題の選択 - 体験的語りの場合
6. 態のはたらき - 理論編
7. 態のはたらき - 第三者的語りの場合
8. 態のはたらき - 体験的語りの場合
9. 時制のはたらき - 理論編
10. 時制のはたらき - 第三者的語りの場合
11. 時制のはたらき - 体験的語りの場合
12. 間接話法 - 理論編
13. 間接話法 - 第三者的語りの場合
14. 間接話法 - 体験的語りの場合

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

概要(2)(4)参照。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	20% 概要 (5) 参照
平常点	40% 概要 (2)(3) 参照
その他	40% 翻訳成果:概要 (4) 参照

成績評価の方法・基準(備考)

※欠席が開講回数の1/3を超えた者は成績評価の対象としません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

別途指示する

オフィスアワー

その他特記事項

・本授業に加えて、「ドイツ語学II (2)(4):演習」も合わせて受講することが望ましい。

参考URL

担当教員の HP:
<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/fujinawa/>

備考

科目名: ドイツ語学Ⅱ(2)(4):演習

担当教員: 林 明子

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 水3

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C855,LE-LG2-C8

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:31:0

更新者: AA0530

更新日時: 2025-01-09 13:27:5

授業形式**履修条件・関連科目等**

- (1) 本授業は、今年度前期開設の「ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義」が履修済みであることを前提としている。但し、前年度までの「ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義」を履修済み、あるいは「ドイツ語学Ⅰ(1)(3):講義」「ドイツ語学Ⅰ(2)(4):演習」を含む言語学分野の授業履修を通して言語学の基礎を十分身につけた学生は、後期のみの履修でも差し支えない。
- (2) 本授業に加えて「ドイツ語学Ⅰ(2)(4):演習」も合わせて受講することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ✓ ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

言語学の魅力の一つとして、言語事実の観察・分析を通して、背景にある社会や文化に客観的に迫ることがあげられる。授業では、前期「ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義」で得た知識を活用しながら、社会言語学という分野を通して、より具体的にその一端に触れることを試みる。授業では、ドイツ語で書かれた入門書から „Mehrsprachigkeit und Sprachkontakt(多言語併用と言語接触)“ の章を取り上げる。ドイツ語で専門分野の入門書を読むことで、専門用語や方法論についての知識を深め、事例については分析も体験する。いずれの場合も、予習にあたって、音読することを強く推奨する。また、テキスト全体の構造を意識した読みを心がけ、語・句・文のレベルでは文法規則を踏まえるよう指導する(「分析しながら読む」練習)。進捗状況によっては、言語変種についての章も扱う。

科目目的

具体的な言語資料の分析結果に基づいて、言語の構造や機能について考察する能力を養うことを目的とする。将来、どの分野で卒業論文や卒業研究を執筆することになっても、言語事実を観察・分析することによって、背景にある社会や文化に客観的に迫れる力を身に付けることを目指している。

到達目標

本授業では、前期に引き続き、社会言語学分野(特に多言語併用)に焦点を当てる。ドイツ社会における多言語併用/マルチリンガリズムは、移民問題とも関連し、従来とは異なる側面から議論される。前期に日本語で学習した専門用語や概念について、ドイツ語を媒介語として確認すると同時に、ドイツ語で書かれた導入文献を「分析しながら読む」ことを通して、専門書を読むためのストラテジーも身に付ける。

授業計画と内容

* 受講生のドイツ語力や授業の進捗状況等に鑑み、予定したテーマや進度を変更する可能性もある。

- (1) オリエンテーション:予復習の仕方と導入文献(言語学分野)の読みの指導
- (2) 導入:多言語による地名
- (3) 多言語併用と言語接触
- (4) 多言語併用と少数言語
- (5) 多言語併用と移住/移民
- (6) バイリンガリズムとダイグロシヤ
- (7) ビジンとクリオール
- (8) 言語干渉の分析
- (9) 言語政策
- (10) 言語行為と社会行為
- (11) 共通語・専門語・集団語
- (12) 標準語(全国共通語)・俗語・方言
- (13) 言語変種間の関連性
- (14) 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	日本語でもドイツ語でも、当該分野の基本的な概念や方法論を十分理解し、論文形式の文章の中でも正確に把握できるか、また基本的な概念や方法論を実際のデータ分析に応用し検証しながら情報を得る「分析的読み」ができるようになったかを評価の対象とする。
平常点	40%	ドイツ語テキストの予習・復習・発表を通じた課題への取り組み、授業への貢献度を評価する。授業後に提出する「今日の気づき・ひらめき」などを通して理解を確認するとともに、そこに記された発展的な「気づき」も重視した上で採点する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- * 原則として、出席率が70%に満たない者、課題未提出の者はE判定となるので注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- * 課題等に対する授業中のコメント内容は、期末レポートやその後の学びに反映させてください。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを用いて、学生の反応や「気づき」を把握し、クラスで共有しながら授業を進める。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- <テキスト>
* 授業用のハンドアウトを用意する。

<参考文献>
Bergmann, R. Pauly, P., Stricker, S. (2005) Einführung in die deutsche Sprachwissenschaft. Vierte Auflage. Heidelberg: Universitätsverlag Winter.

Bergmann, R. Pauly, P., Stricker, S. (2010) Einführung in die deutsche Sprachwissenschaft. Fünfte Auflage. Heidelberg: Universitätsverlag Winter.
Bußmann H. (Hrsg.) (2008) Lexikon der Sprachwissenschaft. Stuttgart: Alfred Kröner Verlag.
グロジャン、フランソワ (著)、西山教行 (監訳)、石丸久美子・大山万容・杉山香織 (訳) (2018)『バイリンガルの世界へようこそ 複数の言語を話すということ』勁草書房
トラッドギル、P. 著、土田滋訳 (1975)『言語と社会』岩波新書
山本雅代編著、井狩幸男・田浦秀幸・難波和彦著 (2014)『バイリンガリズム入門』大修館書店
Van Herk, Gerard (2018) What Is Sociolinguistics? Second Edition. Wiley Blackwell.

<辞典／事典類>

*ドイツ語の文献講読には、独和辞典だけでは不十分。以下の辞・事典類が理解の助けとなる。

亀井孝他編著 (1996)『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂
斎藤純男・田口善久・西村義樹編 (2015)『明解言語学辞典』三省堂
ドイツ言語学辞典編集委員会編 (編集主幹: 川島淳夫) (1994)『ドイツ言語学辞典』紀伊國屋書店

オフィスアワー

その他特記事項

どの回でもドイツ語の具体例の詳細な分析を扱う。ドイツ語テキストのトップダウンの読み、ボトムアップの読みの双方を活用するが、それ自体がテキスト分析を伴う作業につながる。能動的かつ積極的な授業態度が求められ、「聞いているだけ」の時間はない。

参考URL

備考
